

Ⅲ. 各種機関との交流

2. 1. 1 台湾視察

◆ 目的 ◆

地元の石川県出身である土木技師の八田與一が行った台湾における農業水利事業を通して、経済性を考慮した環境改善活動を学ぶ。

◆ 八田與一について ◆

八田與一は、石川県河北郡花園村（現在の石川県金沢市今町）で生まれ、東京帝国大学工学部土木科を卒業し、台湾総督府に土木技師として着任した。当時台湾は、上下水道の整備が始まる時代であり、台北以外は未開発のため疫病が広まっていた。また、雨季と乾季があり、塩害も広がっていたために不毛の大地となっていた。そこで、嘉南平野の灌漑整備を計画し、烏山頭ダム建設を始めとして嘉南大川と呼ばれる大規模な農業水利事業を行うことで台湾の農業を発展させた。



八田與一の銅像

烏山頭ダムは、大正9年9月に着工して昭和5年5月完成、約10年がかりで建設された。地震の多い地域であることからセミ・ハイドロリックフィル工法が用いられ、沿堤の長さ1300メートル、1億5000万トンの水を貯めており、当時、アジア最大であった。右上の写真は、烏山頭ダムの堤防にある八田與一の銅像である。戦争中に一時紛失したものの、戦後に発見され、日本人でありながら台湾の人々に大切に管理されている銅像である。また、年1回、5月に墓前祭も行われている。

八田與一は、土木技師だけでなく、経済家としても注目されている。ダム建設だけでなく、塩害地域の塩分を洗い流すために給排水路の整備を行ったこと、また、少ない水で多くの人が農業をできるように3年輪作給水法を計画したことで有名である。3年輪作給水法とは、嘉南平野全体を3つに分けて、稲、雑作、さとうきびをまわすことである。これらの事業により、嘉南平野全体では多くの人が平等で豊かな生活ができるようになった。

◆ 活動内容 ◆

平成 20 年 9 月 28 日(日)～10 月 1 日(水)

教員 3 名が台湾で烏山頭ダムと水路網を見学した。八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会世話人代表・事務局長である中川外司(石川県金沢市)さんの紹介で、台湾の台南にある嘉南農田水利会を訪ね、会長である徐金錫さんから八田與一の功績について話しをしていただいた。また、実際に烏山頭ダムに赴き、実際のダムの説明をしていただき、八田與一記念館も訪ねた。



嘉南農田水利会にて



烏山頭ダム

平成 20 年 11 月 5 日(水)～11 月 8 日(土)

電気工学科 4 年生(43 名)と教職員(5 名)が研修旅行で台湾を訪問した。龍華科技大では、施設見学、学生同士のお土産の交換や懇談会を行った。台湾デンソーでは工場見学を行い、その他にも故宮博物院や忠烈祠、TAIPEI101 等を訪問し、台湾の文化や歴史を学んだ。また、初めての海外旅行という学生がほとんどで、最初は緊張した面持ちだったが、好天にも恵まれ、今まで直に接する機会が少なかった外国文化に触れて、有意義な時間を過ごすことができた。



龍華科技大にて



台湾デンソーにて

ふるさと偉人館訪問

◆ 目的 ◆

台湾での海外視察にさきがけ、地元の石川県出身である土木技師の八田與一が行った台湾における農業水利事業を通して、経済性を考慮した環境改善活動を学ぶ。

◆ 活動内容 ◆

平成 20 年 11 月 4 日(火)

電気工学科 4 年生(43 名)と教職員(2 名)が金沢ふるさと偉人館(石川県金沢市)を訪ね、館長の松田章一さんから八田與一についての講演会を開催した。金沢ふるさと偉人館は、金沢の中心地にあり、近代日本を支えた石川県にゆかりのある 17 人の偉人を紹介している文化施設である。八田與一は、17 人の 1 人として展示されている。館長である松田章一さんは、平成 19 年に八田與一の生涯を演劇にして、金沢と東京で講演を行った経験があり、台湾には何回も行って活動をされている方である。講演会では、はじめに八田與一が行った業績について簡単に説明を受けたあと、自身が制作した演劇を見ながら、説明を加えて八田與一の生涯について学習した。11 月 5 日(水)からの台湾視察前に貴重な学習となった。

講演とは別であるが、平成 20 年 11 月 15 日～30 日アニメ映画「パッテンライ！！」として八田與一の生涯が映画館で上映されることも紹介された。



講演会の様子



講演会の様子